

I 学校評価について

1 目的

重点目標の達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について教職員・保護者・児童生徒に対してアンケート調査を実施し、学校運営の改善および次年度の学校経営計画の策定に役立てる。

2 実施方法

(1) 実施日 令和7年12月1日（月）～12月12日（金）

※再通知後12月17日（水）まで延長して実施

(2) 実施概要

- ・学校経営計画に基づき、学校評価アンケートの質問項目を設定（教職員・保護者・児童生徒別）*教職員は、自己評価とする内容に変更した項目あり（R7～）
- ・教職員、保護者、児童生徒別の学校評価アンケートをFormsで作成→配付→回答回収
- ・学校評価アンケートの集計処理、自由記述回答の整理
- ・重点目標、学校経営計画に照らし合わせ分析→まとめ

(3) 質問項目

学校経営計画の達成状況および取り組み状況を把握するため、重点目標の領域ごとに、それぞれに対応する質問項目を設定する。また、各領域において、達成指標を設定した項目については、当該指標の達成度を適切に把握できるよう、質問項目を設定することとした。

3 対象者別回答状況

対象者	対象者数	回答数	回答率（%）	参考（R6回答率）
教職員	46	46	100%	100%
保護者（小中分高）	50	44	88.0%	67.3%
児童生徒（小中高）	52	27	51.9%	52.8%

※教職員の対象範囲：教諭、養護教諭、実習教諭、常勤講師（非常勤職員を除く）

※児童生徒に兄弟姉妹がいる保護者の場合、回答の重複を避け、回答は1回とした。

※児童生徒は、回答可能な児童生徒のみ実施→小学部4名、中学部7名、高等部16名

4 評価方法

A・Bを肯定的評価、C・Dを否定的評価とし、Eを含めないで割合を算出する。

記号	選択肢	選択肢の意味合い	備考
A	そう思う	積極的肯定	A+Bを「肯定的評価」とする
B	ややそう思う	消極的肯定	
C	あまりそう思わない	消極的否定	C+Dを「否定的評価」とする
D	そう思わない	積極的否定	
E	わからない		理由を問う

5 評価の分析

- ・主に回答パーセンテージによる評価とし、項目によっては学部別の数も分析する。
- ・肯定的評価の割合90%未満を検討し、80%未満を重点検討事項とする。

6 対象者別学校評価アンケート結果

- ・学校評価アンケート回答集計結果（別紙1：教職員、別紙2：保護者、別紙3：児童生徒）
- ・今年度の重点目標ならびに学校経営計画達成指標に基づき、令和6年度までの評価項目を変更した項目があるため、前年度（R6）比較については可能な項目のみ行う。

II 評価の分析

1 学校経営計画重点目標の各領域から達成指標を設定した項目の評価について

重点目標	達成指標	項目 No	肯定的評価	達成状況
ア 児童生徒が主体的に学ぶ授業づくりの実践により自己肯定感や向上心を育む教育の推進	・児童生徒が主体的に学ぶ授業づくりに取り組み自己肯定感や向上心を育むことができたと感じた 職員の割合（85%以上）	別紙1 教職員 3	100 %	○
イ 授業研究会や研修等での学び合いや自主研修の充実により、高い専門性の向上を図る	・主体的に研修会等に参加し、授業等でICT機器を活用実践した 職員の割合（85%以上）	別紙1 教職員 4	95.6 %	○
ウ 継続した体力づくり活動の充実により健康・体力の維持、向上を図ると共に計画的に健康教育を実践する	・健康・体力の維持、向上を図るため基本的な生活習慣の形成や体力づくり活動など計画的に進めていると回答した 保護者の割合（85%以上）	別紙2 保護者 3	92.3 %	○
エ 学校いじめ対策組織の取組を中核とし、いじめの未然防止、早期発見に努め適切な対応に当たる	・先生たちは、友達とのトラブルやいじめの問題があるとすぐに対応してくれると回答した 生徒の割合（95%以上）	別紙3 児童生徒 7	$\frac{90.9}{\%}$	×
オ 進路実現に向けて計画的に進路指導、教育支援を行う	・進路指導にあたり、保護者に対して十分な情報を提供し、適切にアドバイスを行っていると思うと回答した 保護者の割合（95%以上）	別紙2 保護者 8	$\frac{84.6}{\%}$	×
カ 信頼される学校づくりに向けて児童生徒の模範となるよう率先垂範し、明るく爽やかな挨拶を励行する	・児童生徒の模範となるよう率先垂範に心掛け、毎日明るく爽やかな挨拶に取組んだと回答した 職員の割合（100%）	別紙1 教職員 16	100 %	○

今年度設定した6項目の達成指標のうち4項目で目標を達成し、達成率は66.7%であった。特に「主体的な学びの授業づくり」「研修参加・ICT活用」「体力づくり」「挨拶の励行」は達成指標を上回り、取り組みの定着が認められる。一方、「いじめ対応に対する認知」「進路情報提供と助言の充足感」は達成指標未達成であり、児童生徒や保護者への情報提供の方法や理解の浸透に更なる工夫が必要である。

「いじめ対応に対する認知」については、否定的評価は少なく、「E：わからない」と回答した児童生徒が5名（小学部1名・高等部4名）いたことが特徴的であった。特に高等部で「わからない」が多い結果となった。この要因として、高等部になると生徒は大人に近づき、人間関係も複雑化してくるため、同じ出来事でも「いじめ」と感じるかどうか、生徒本人の受け止め方や状況によって大きく変わる可能性がある。更に相談できる窓口も多くなり、どこに相談すればよいのか迷いやすく、学校側の対応基準も分かりにくく感じられる可能性がある。今後は、いじめの定義を再確認するとともに相談方法を分かりやすく提示することなどで認知度を高めるとともに、児童生徒が困ったときに気軽に相談できる雰囲気づくりや、日常的な見守りの強化が引き続き重要となる。

「進路情報提供と助言の充足感」については、否定的評価の保護者が6名（小学部3名・中学部1名・高等部2名）であり、特に小学部保護者の割合が高い結果となった。今後は、面談時

に『進路のてびき』を有効的に活用し、学年別のロードマップを共有するなど、個別のフォローをより充実させていくことが求められる。また、現行の質問項目は、「情報提供」と「助言」を一括りにしているため、どちらに不満があるのかが分かりにくい状況である。次回の学校評価アンケートでは、質問項目を改善し、保護者の声をより丁寧に反映できるよう工夫していきたい。

2 対象者別の評価

① 教職員

・全20項目のうち項目No.20「家族や自分自身の時間の確保ができていないか」を除き、全ての項目において肯定的評価が9割を超える結果となった。これは本校の教育活動や学校運営の方針が、概ね教職員間で共有され、日常の実践として定着していることの表れであると考えられる。特に、「主体的に学ぶ授業づくりの実践」「健康教育・安全教育の取り組み」「防災教育の取り組み」「キャリア教育の取り組み」「児童生徒の人権を尊重した指導支援」「個人情報の保護を意識した情報機器の活用」の各項目において肯定的評価が100%であったことは、本校の教育目標や教育の方向性が職員一人一人の自覚と責任のもとで実践されていることを示している。これらは、児童生徒の安心・安全な学校生活の保障や、社会的自立に向けた資質・能力の育成につながる成果である。

一方で、自分や家族の時間の確保については、約三分の一(32.6%)の職員が否定的評価となっており、業務の多忙感や負担感を感じていることが伺え、健康面も懸念される。ただし、肯定的評価が昨年度比で+1.4%改善している点は、わずかではあるものの、働き方に関する意識や取り組みが徐々に前進している傾向とも捉えられる。今後は、教育の質を維持・向上させつつ、業務の効率化や役割分担の見直しについて職員でアイデアを出し合いながら、働き方改革の視点をより意識した学校運営を進め、職員が心身ともに健康で意欲的に教育活動に取り組む環境づくりを進めていく必要がある。

② 保護者

・多くの項目で高い肯定的評価が得られ、学校の教育活動や支援体制に対する保護者の信頼が概ね高いことが分かる。特に、「授業の適切な体制」「生活安全・交通安全に関する教育」「防災・復興教育」など、安全・安心に関わる取組は非常に高い評価となった。また、「基本的な生活習慣の形成や体力づくり活動」「いじめの未然防止」や「他校間交流および地域との連携」「人権を尊重した指導」も高い肯定率を示し、児童生徒の理解や支援に向けた学校の姿勢が保護者にしっかりと伝わっていることが伺える。

一方で、「個別の指導計画の作成と支援」(88.7%、前年度比-8.3)、「福祉サービスや医療、行政との連携」(88.4%、前年比-2.5)、「校内の様子や情報発信」(84.1%、前年度比-7.0)、「個人情報の取り扱い」(88.7%、前年比-11.3)、「PTA活動との連携」(90.0%、前年度比-6.6)など、一部の項目では前年度より肯定率が低下した。「満足できる学校給食の提供」(82.5%)については、児童生徒の満足度(96.0%)と大きな差が見られた。これらの肯定率90%未満の項目の共通点は、保護者とのあらゆる情報共有やコミュニケーションの在り方について、より丁寧な説明や関わりの機会が求められていること、情報提供方法にも工夫が求められていることを示していると推察する。今後は、保護者の声をより丁寧に受け止め、説明・相談の充実や連携体制の強化を図ることで、より信頼される学校づくりを進めていくことが求められる。

(*「進路情報提供と助言の充足感」(84.6%)については、1のとおり)

③児童生徒

・11項目のうち10項目で90%を超える高い肯定的評価が得られた。学習体制・体力づくりの授業等高評価が得られ、児童生徒の実態に応じた指導が概ね実践できていると考えられる。安全・安心に関する項目では、避難指導や命を守る学習について多くの児童生徒が肯定的に回答した。一方で、「学校が安全だと思う」という項目では、他の項目に比べてやや低い評価（88.5%・あまりそう思わない3名・高等部）も見られ、一部の生徒が学校環境に不安を感じていた。今後も安全点検や環境整備を継続し、安心して過ごせる学校づくりを進めていく必要がある。「いじめへの対応」と「悩み相談」の項目は、「いじめの問題にすぐ取り組んでくれる」・「いつでも悩みを聞いて励ましてくれる」と感じている児童生徒が多いものの、共通して「わからない」と回答した児童生徒もあり、さらなる安心感の醸成が求められる結果となった。（*「いじめへの対応」分析詳細は1のとおり）進路指導に関しては、「進路について教えてくれる・一緒に考えてくれる」が全員から肯定的に評価（100%）され、児童生徒が将来を見据えて相談しやすい環境が整っていることが確認できた。また、他校との交流や地域行事についても多くの児童生徒が「参加することが楽しい」（92.6%）と回答、「給食満足度」（96.0%）、「学校が楽しい」（92.0%）も肯定的評価が高く、学校生活に満足している児童生徒が多い結果となった。

3 まとめ

今年度の学校評価では、教職員・保護者・児童生徒のいずれの対象においても、多くの項目で90%以上の高い肯定的評価が得られ、学校の教育活動が概ね順調に進んでいることが確認できた。特に、安全・安心の確保、主体的な学びの促進、人権尊重の姿勢、地域との連携、進路支援など、本校が重点的に取り組んできた教育活動が、日常の実践として定着していることが確認できた。これらは、児童生徒一人一人の成長と学校生活の充実につながる重要な成果であり、学校全体としての大きな強みであると考えられる。

一方で、教職員の働き方に関する負担感や、保護者との情報共有・コミュニケーションの在り方、人的・物的学校環境に対する一部児童生徒の不安感など、改善が必要な点も明らかになった。自由記述からは、職員の業務量の偏りや健康面の懸念、保護者からの学校の配慮不足に関する具体的な要望、児童生徒の個別の困り感など、丁寧に受け止めるべき課題が示されている。今後は、これらの意見を真摯に受け止め、学校運営の改善に向けた具体的な取り組みを進めていくことが求められる。特に、教職員が心身ともに健康で働き続けられる環境づくり、保護者とのより円滑で丁寧な情報共有体制の構築、児童生徒が一層安心して過ごせる学校環境の整備は、継続的に取り組むべき課題である。

今後も関係者の声を学校づくりに生かしながら、児童生徒のよりよい学びと成長を支える教育活動の充実を図り、信頼される学校づくりに向けて取り組んでいきたい。